

**授業概要**

昭和前期の短篇小説を例に、日本の近代小説の読み方を学びます。

小説を読むということは、これまでの学校教育で学んできた方法とはかなり異なる、別のスキルが必要になります。それらを具体的な小説を例に、演習形式で学んでいきます。

毎回、テキストに収録された小説を読んでそれを授業内で報告、発表する形をとり、受講者全員でともに考え、小説を読むとはいかなることかを学び、読みの可能性を拡げていくよう指導します。

人と対話することが非常に大事な授業になります。

**授業計画**

以下の計画は受講者人数によって変更があり得ます。

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	発表方法について
第 3 回	平林たい子「施療室にて」についての報告発表
第 4 回	井伏鱒二「鯉」についての報告発表
第 5 回	佐多稲子「キャラメル工場から」についての報告発表
第 6 回	堀辰雄「死の素描」についての報告発表
第 7 回	梶井基次郎「闇の絵巻」についての報告発表
第 8 回	牧野信一「ゼーロン」についての報告発表
第 9 回	小林多喜二「母たち」についての報告発表
第 10 回	伊藤整「生物祭」についての報告発表
第 11 回	室生犀星「あにいもうと」についての報告発表
第 12 回	北条民雄「いのちの初夜」についての報告発表
第 13 回	宮本百合子「築地河岸」についての報告発表
第 14 回	高見順「虚実」についての報告発表
第 15 回	まとめ
第 16 回	課題提出

**到達目標**

- ①小説を読み解く方法とその意味を知り、読むことの可能性を拡げる。
- ②他者と意見を交換させる中で、自分の考えを適切に伝え、建設的な意見交換ができるようになる。

**履修上の注意**

授業内で受講者が最低 1 回は発表を行い、毎回意見交換する演習の形を取ることで、主体的な参加姿勢が必要になる。履修にあたってはくれぐれも注意すること。発表者以外は、毎回発表される小説の内容について事前に読んできて、授業の最初にコメントを記すことになる。

- ①欠席しないこと。特別の理由がない限りすべて出席するのが前提である。
- ②授業で指示された小説を必ず読んでくること。
- ③受講者の発表を主体的に聞き、求められたら必ず発言すること。

日本文学講読（近現代）Ⅰと連続した内容だが、日本文学講読（近現代）Ⅰを受講していなくても受講可。

**予習・復習****【予習】**

- ・毎回の授業で指示された小説を読んで、考えたことを報告できるようにすること。
- ・自らの発表担当の時には定められた調査考察を行い、発表資料を作成しておくこと。

**【復習】**

- ・授業での議論を踏まえ、小説を読み直すこと。

**評価方法**

授業課題（コメント・発言・受講態度）を 40%、授業内発表を 30%、期末レポートを 30%として評価する。

**テキスト**

- ・教科書名：日本近代短篇小説選 昭和篇 1
- ・出版社名：岩波文庫
- ・ISBN：978-4003119143